

国語科学習指導案

- 1 単元名 登場人物の気持ちを考えよう
- 2 ねらい
 - ・ 登場人物の会話のやり取りや会話文にふれることを通して物語を楽しむ。(関心・意欲・態度)
 - ・ 登場人物の気持ちを考える。(読むこと)
- 3 指導にあたって

(1) 児童について

本学級に在籍する児童には、筋緊張、体温調節の不全、左手の麻痺等がある。また、大きな音や突然の人や物の動きに過敏に反応し、学校生活の中では外部からの刺激に対して、身体の緊張が高まることも多い。しかし、表情はとても豊かで、周囲の人とのコミュニケーションは言語を介さなくても十分に取ることができる。日常は車椅子(座位保持椅子)を使用しているので、場所の移動、排泄など生活全般において介助または支援を必要とする。そして、また、水分の補給や食事の摂取にも配慮が必要である。成長に伴い、保育所の年中組より地域の保育所に通い、集団での生活の中で、同年や近い年齢の子どもたちとも交流を深めてきた。学校生活のリズムにも慣れ、さまざまな活動や行事を通して、できることには根気よく取り組み、また、苦手なことにもよく努力してチャレンジしている。

教科の指導では、コミュニケーション能力を高めるために、「手遊び」や「音遊び」「まねっこ遊び」「2つ3つの中からの選択」等に取り組んでいる。また、「口の動きを真似しての発音練習」を通して、言語に対する意識付けをしている。昨年度よりの継続としての絵本や歌などを用いての学習に加え、興味が出てきた文字の学習に取り組み、ひらがなの習得をめざしている。また、かずについては生活と結びつけて、物の量や大きさ、順序数、増減等を学習している。本児は絵本を見ることや、読み聞かせが大好きである。学校でも家庭でもいろいろな読み物に触れさせたいと考えている。

(2) 単元について

手紙をもらったことのないがまくんの寂しさと、ないしょで手紙を出す優しいかえるくんの友情があふれる作品である。音読をしながら、登場人物の言動に注目し、両者の心を感じさせたい。また、音読を大切にしたいとはいえ、本学級の児童は音声での言語の表出は苦手である。教師の音読に合わせて、本児なりの表現の仕方を工夫し、楽しみながら音読に参加させたい。また、この作品には、作者自身が挿絵を描いている。言葉だけではわからないかえるくんとがまくんの気持ちの移り変わりが、挿絵の表情や様子に表わされているので、言葉だけではなく挿絵も活用しながら、気持ちを考えさせたい。

日常の生活の中で、本学級の児童が「友だち」を意識して生活することは、とても意味のあることである。かえるくん、がまくん、かたつむりくんの言動から伝わる「友だち」への思いを、本児なりに心地よく感じることであればよいと考えている。この物語を通して、本児自身の「友だち」への意識もさらに深めていきたい。

本校は図書室が2階に位置するため、移動の困難さから本学級の児童は図書室へ行く機会が少ない。この単元の学習のまとめとして、作者であるアーノルド＝ローベルの作品を探してみたり、また、これまで国語科の学習の中で取り上げた物語の作者の本を見たりして、図書館司書の先生にも協力してもらいながら図書室に親しむ機会を作りたい。

4 指導計画（全15時間）

次	学習内容	学習活動
第一 次 本 時 10 / 15	1～3 <読んでみよう> 詩「秋のお知らせ」を読む。 物語「お手紙」を読む。	・詩「秋のお知らせ」、物語「お手紙」を読んだ後、手紙を書いてもらった経験を思い出す。 ・ひらがなチップを用いて、視写する。
	4～10 <考えよう> 登場人物の気持ちを考える。	・1場面ずつ、登場人物の会話をもとに、それぞれの気持ちを考える。 ㊟ 寂しさ・悲しみ ㊞ お手紙もらったことないんだもの。 ㊟ いちどもかい。 ㊟ 満足 ㊞ おねがいでけど…。 ㊟ まかせてくれよ。すぐやるぜ。 ㊟ ㊜ 憂鬱⇄期待 ㊞ いやだよ。あきあきしたよ。ばからしいこと。 ㊟ ひょっとして…。くれるかもしれないよ。 ㊟ 疑問⇄期待 ㊞ どうして、きみ…。 ㊞ お手紙をまっているんだもの。 ㊟ 喜び・幸せ ㊞ ぼくは、こう書いたんだ。…きみの親友、かえる。 ㊞ ああ。とてもいいお手紙だ。
	11～13 <書いてみよう> 登場人物に手紙を書く。	・かえるくん、がまくん、かたつむりくんにお手紙を書く。
第二 次	14～15 <楽しもう> 図書室の本を読む。	・図書室で「お手紙」の作者アーノルド＝ローベルの作品を探して読む。 ・司書の先生に協力していただき、国語の時間に勉強したいろいろなお話の作者の本を紹介してもらおう。 長 新太 谷川 俊太郎 なかがわりえこ ハンス＝ウィルヘルム 工藤 直子 レオ＝レオニ 他

5 本時の学習

- (1) ねらい ことば遊びを通して、人との関わりを広げる。(関心・意欲・態度)
登場人物の様子や場面の様子を思い起こしながら、お話を楽しむ。(読むこと)
- (2) 準備 かえるくん、がまくん、かたつむりくんの指人形 手紙 CD
フラッシュカード
- (3) 展開

配時	学習活動	教師の支援(・) 評価(○)
10	1. ことば遊びをする ・ 自己紹介 名前呼び 握手 インタビュー など ・ あいさつの歌 ・ ものの名前 ・ しりとり	<ul style="list-style-type: none"> 歌やゲームや遊びを通して、楽しい雰囲気をつくる。 参観の先生方とコミュニケーションをとり、リラックスして学習に入れるようにする。 <p>○ ことば遊びを通して、人との関わりを広げることができたか。</p>
15	2. 「お手紙」の話を読む 3. 大切なキーワードを完成させる 4. かえるくん、がまくんの気持ちを考える	<ul style="list-style-type: none"> 指人形を用いて登場人物を意識させながら、話を読む。 身振りや動きをまねて、音読の中に参加できるようにする。 「 」のカードを用意し、本文の中に入れながら、かえるくんとがまくんのことばを完成できるようにする。 かえるくんとがまくんが仲良く手紙を待つ様子を感じることができるようになる。 登場人物の気持ちを、挿絵の顔の表情などをもとに考えることができるようにする。 話し言葉や行動を一つ一つおさえながら、示した選択肢の中から登場人物はどんな気持ちなのかを考えさせ、自ら選ぶ活動を取り入れる。 時間がかかっても、ヒントを与えながらゆっくり取り組むたい。 <p>○ 登場人物の気持ちを考えたり、お話を楽しみながら聞いたりできたか。</p>
5	5. もう一度「お手紙」の話をいっしょに読む	<ul style="list-style-type: none"> 参観者の先生方に聞いてもらう。 学習したことを振り返りながら、まとめの音読をすることを伝える。 学習のまとめとして、登場人物の友情を感じさせながら、全文を読む。
5	6. 体の調子を整える	<ul style="list-style-type: none"> 十分ががんばったことをほめる。 学習の片付けをする。 学習の終わりのあいさつをする。

(4) 視点

- ことば遊びを楽しむことができたか。
- かえるくん、がまくんの友だちへの思いを、心地よく感じる事ができたか。